



横浜市立城郷小学校  
明治33年6月創立

# 学校だより

めざす子ども像

令和5年1月25日  
2月号



ともに学び、よりよい生き方を見つけ出す しろさとっ子

◆学校だよりはホームページにも掲載されています。右のQRコードからもご覧になれます◆



## 子どもの自立に向けて

校長 三瓶 淳

この学校だよりが配布される日は、「過去最強クラスの寒波」や「10年に一度の寒さ」と言われる寒気団の影響を受け厳しい寒さになる見込みです。私はその予報を聞き、ちょうど5年前の2018（平成30）年1月、前任校においてプールに繋がる3か所の給水管から水が噴き出していたのを思い出しました。給水管が凍結して破裂したのです。その冬は、2017年11月下旬から最高気温が一桁になったり、東京で1月に23cmの積雪があったり、…とても寒いシーズンだった記憶があります。今年は、子どもたちの登下校や学校生活などに大きな支障が出ないことを願っています。

さて、冬休みはコロナ禍の制限もなかったためご両親の田舎に帰省したり、ご家族で出掛けたりして、子どもたちは「親子の絆」というものを再認識したのではないのでしょうか。そのような中、私は不登校のお子さんをもつ保護者が、「親子の絆」を再構築していく話を聞く機会がありました。その方のお子さんは、中学1年生の冬から登校しぶりが始まり、中学2年生の4月から登校できなくなったそうです。ご両親で悩んだ末に選んだ選択肢は、『不登校生徒を100%継続登校させる』専門家に任せるということでした。まず、その専門家が来るや否や指導が入ったのは、そのお子さんではなく、両親、特に母親でした。母親はその子のためと思い、小学校時代は、何でも先回りして手をかけ安全策を教え、たくさん話をし（一方的な情報提供）、日々の宿題はもちろん、時には家庭科の実習課題や夏休みの自由研究・作品作りなどもやってあげていました。



母親は、専門家より2か月間に渡り指導を受けました。『子どもからの話には、「うん」「そう」「へ～」と返すだけ』その間、『子どもと一緒に外出することは禁止』9月になるとお子さんは、専門家よりカウンセリングを受け、「1日も休まずに登校する」という約束を交わした後、登校を再開し、12月まで1日も休まず登校できたそうです。このケースのポイントは『自立』です。専門家曰く「小学校3年生程度になったら、失敗しても良いから自分のことは自分でさせることが大切」だそうです。また、指導を受けるに当たって親が言われた心構えは次の3点です。

- 1 子どもを変えようとは思わない。
- 2 親が変われば、子も変わるという考え方をもつ。
- 3 感謝、感動、心配り、気配り、思いやりのできる親に変わるようにする。

その母親は、お子さんが継続登校出来ている今も、心の距離をおきながら「3つの返事」と「心構え」を守って、お子さんに接しているようです。「我が子が、以前と違って自分のやりたいことや楽しかったことなどをたくさん話してくれる」と嬉しそうに話す母親の姿が印象的でした。

親子の関わり方を途中から変えるということは、たいへんな決意が必要かと思いますが、我が子を思えばこそ実践できた例だと思います。また、学校現場に置き換えたときに、教師は子どもたちに手を貸しすぎてはいないか、あれやこれや話が長すぎてはいないか、と私自身振り返るきっかけにもなりました。これからも、子どもたちのよりよい自立に向けて支援していきたいと思います。